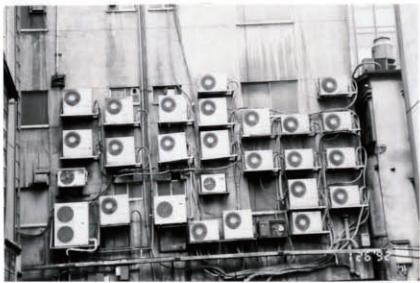




東京。チアーカイブ

例によって旧実家から救出した中途半端に古い写真から手縕る東京物語。



を軽々運ぶ力自慢の若い衆が持ち上げた。という力石が奉納された神社もある。明治以降も関連業者が集まり、その中心となつたのが佐賀食糧ビルだった。関東大震災以降に立て直されたコンクリート煉瓦の洋館で、中庭があつて、見上げると建物の階上にバルコニーがあり、映画館に出てくるようなイカスピビルだった。実際、映画かテレビのロケに遭遇することもあつて、まあ誰もが使いたくなるような風情だった。平成に入ってからは入居者もあまりいなくて、管理会社と幾つかのオシャレっぽいオフィスが入つていて。

その入口に何故ドカベンがいたのか分  
からない。それこそ何かの口ケかいベン  
トを使って、そのまま放置されたのかも  
知れないけど、昭和初期の堂々たるなレ  
トロビルと二メートル近い漫画の主人公  
とのミスマッチ感が不思議な空気を生み  
出していた。その食糧ビルも十数年前に  
取り壊され、周辺の空襲を免れた古き良  
き建物も激減していった。あのドカベン  
はいったい何処へ行ったんだろ?

しかもコバルトブルーの屋根瓦が、中央の時計台みたいな塔屋部分に沿場の文字が胸を張つて付いていて、世紀じゃなくて廿世紀なのも、それは思えない斬新な外観に相応しく、言つてみりやドヤ街みたいな場所、こんな趣の銭湯を作つたんだろう？  
そうか、すぐ近くが新吉原。そのかしてハイカラな大店も多かつた現存したらしきかりレトロモダン、街を造つていたのかも知れない。  
山谷はどんどん大人しく静かに、ストハウスは海外のバツクバツク

A cardboard box overflowing with a massive collection of old photographs. The photos are mostly in color and depict a wide variety of subjects, from landscapes and cityscapes to portraits of people. The collection appears to be quite extensive, filling the entire box.

別に驚かなかつた。子供の頃には上野や浅草の地下鉄の出入り口辺りに、そんな人々は沢山いたから。でも、どつかから調達したであろうマットレスを敷いて、本格的に就寝してゐる人々には流石にびっくりした。

ルが無くなつたら、ビルの裏側が剥き出になつたんだ。壁面を覆い尽くさんばかりの室外機の隙間を、アマゾンの密林地帯みたいな配管が這い回り、見てはいけない物を見てしまつた気分になつた。愈入りにお化粧した素顔の、更に先を見たよつた。

そうか、すぐ近くが新吉原。その頃はも  
かしてハイカラな大店も多かったのかも  
現存したらしきかりレトロモダンな建物が  
街を造っていたのかも知れない。

山谷はどんどん大人しく静かになり、  
ストハウスは海外のバックパッカー御用

は、今やあちこちで普通に見られる。期間限定の風景なんだけど。

高級句誌  
俳人同様  
Haijin Doyo  
三朝庵梅里・筆  
SAN CHO AN BAI RI

未だ身に沁む寒さはあれど、  
弥生三月春間近、ならば本郷弥  
生町、心持ちだけ爛漫に、言問  
通りと言うよりは、ここはやつ  
ぱり弥生坂、登れば続く石垣は、  
右も左も東大で、弥生の町の殆  
どを、占める広大キャンバスだ  
けど、元は加賀様水戸様の、屋  
敷と思えばさもありなん、更に  
昔は弥生土器、歴史は分厚くて

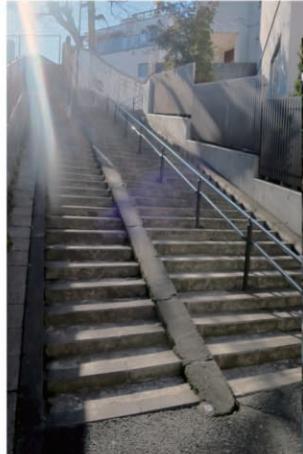
んこ盛り、元水戸様の農学部、  
古色蒼然學舎を抜けて、奥の奥  
には学食と、全く違つアルボ  
ア、隠れ家ランチも御一興、本  
郷通りの煉瓦堀、裏は良き寺良  
き教会、急坂階段高低差、眼下  
に見ゆる根津権現、見晴らし抜  
群高台に、至る坂道異人坂、公  
爵某の元住まい、サトウハチ

ロ一界隈に、住んだという物な  
るほどと、再び横切る弥生坂、工学部  
裏に折れたなら、東大裏口弥生門、斜  
う、かの墨東のラビリンス、路地から  
前弥生美術館、素通り出来ぬ滝田ゆ  
路地の玉ノ井の、濃厚哀愁緻密絵の、  
一部始終をゆるり見て、弥生の町を  
歩いていると、ふと抜けられます  
文字を見た、気がするだけの住宅街、  
入り組む町は池之端、根津の境目う  
えうろと、踏みしめ歩く弥生町。



## 抜けられぬ道を思わず探したり 梅里

入り組んだ町の境でドキドキし



その先を知りたく見上げる急勾配

## 文京区弥生町の旅



在りし日の白亜の姿に思い馳せ



校内の優雅なランチは奥の奥

# 南大塚萬重宝

ミナミオツカヨロズ

チョウホウ

## 北口番外編

東京大塚カウンター異聞  
K'sバーの人々

王子から都電で大塚まで来るんですが、いつも早めに来て、うちで「服していくんです」。お客さんにお店番を頼むなんて、相変わらずの舌氣振り。

「山口屋食堂が閉店しちゃいましたね」「そうなんですよー暫く行かなかつたもんでも、気が付いたら店仕舞いの張り紙があつて…」西巣鴨橋に至る宮仲公園の角の坂道の一帯、向かいは上池袋だけど、工事のフェンスはどんどん低くなつていく。南口にあつたカクヤスは既に更地となり、ホテルベルクラシックの向かいのアパホテルは、二十階建てになるといつ。

\* \* \*

「ペニギンさん、おはよう、おはようございます鐘ヶ淵さん。おや、もう開店時間じゃないんですね?」「武田のお母さんがいつもより早く来たんで、店番を任せましてね」「誰ですか?」「武田のお母さんで?」「大塚北口診療所に週一で通つてゐる人でね、

高野ガラス店が入るビルの完成が迫つてきたとの反比例するよーに、大塚ビルの解体工事のフェンスはどんどん低くなつていく。「やたらメニューの多い食堂でしたね」「僕は飲み屋だと思ってたんですけど」「アタシも数えるほどしか行ったことありませんが」「僕も近くの天平食堂ですけど」

所の知り合いに連れてつて貰つたんですよ。店の正面に貼つてあるメニュー表の裏に置き看板の上に何故か置いたある木彫りの熊。そして鐘ヶ淵さんはハンバーグ、食べましたか?」「いや、食べたことないです。美味しかつたんですか?」「美味しいと

いう前に衝撃的でしたね。ハンバーグというよりは、玉ねぎと挽肉の大盛りで、本当にこのふたつだけ入れて焼いたんじゃないのかつて。しかもドミグラフスソースじゃなくて、ほぼウスターソース味。粗みじん切りの玉ねぎは存在感たっぷりで、これが不思議なハーモニーを作り出し、「そりや、酒の肴に合うそうですね」と羨ましがる鐘ヶ淵さんを見て久々に勝ち誇つた気分になつた僕は、丁目の細い通りがあつて、千代田湯という古式床新しい銭湯の手前で、山口屋はあった。

「やたらメニューの多い食堂でしたね」「僕は飲み屋だと思ってたんですけど」「アタシも数えるほどしか行ったことありませんが」「僕も近くの天平食堂ですけど」

「これがやたら大きくて二百五十円!」ととどめを刺した。「ところで天平食堂ですが」と負け惜しみのように話題をすり替えた鐘ヶ淵さん。「鐘ヶ淵さんのお店に行く途中、折戸通りの食堂ですね」、「こここのチキンカツも旨いでですね」、「天平も何でも安くて旨いです」、「夕方になると常連さんが集まつてきてね」、「野球関係の表彰状なんかが沢山飾つてあるんですね?」「アタシもちゃんと伺つたことがないんですけど、地元のリトルリーグの監督をしてる

ユーフォーム着た子供も何度か見掛けたことがあるんですね」「近所でも知らないことが多いもんですね」。

「南口のえんどう豆も閉店

しちゃいましたよ」「ああ、ショーワインドウ前に特等席がある喫茶店ですね?」「隣もボギーって喫茶店で、この時代に個人経営の店が並んでる奇跡の風景でしたが?」「ミックスサンドとピザトーストが好きでしたよ。僕が子供の頃は都電の車庫だったけど、昭和四十七年に廃止されそれと同時に格好いい煉瓦造りの車庫も消滅。都営住宅が出来て、南大塚大通りに面した一階が、ズラッとお店になつたのだ。「もしかしたら完成当時、界隈で一番背が高い建物だつたかも知れませんね」とは鐘ヶ淵さんの記憶。

編集後記のようなもの

相変わらずの間引き運転でいいません。なのに宣伝で縮緼ですが、「散歩の達人」二月号、巣鴨大塚駒込特集、同じく二月号の「銀座百景」の巻頭ルポとグラビア撮影を担当しております。機

「南口といえど、靴屋さんも閉店しました」「アズマヤですね。昔何度もガラス修理に行きましたよ。竹下景子がバイトしたことがあるって、店の主人に聞きました」「へえ、そんなんですか?流逝は地元密着のベンギンさんだ」「きっと何か飲食店が入るんでしょうね」「あの一角も様変わりです」、「気が付けば」「トーが最年長ですか?」「見上げると建物は変わらないのに、路面店だけ違うお店になつていくって、何だか不可思議な感覚ですけどね」。

\* \* \*

「マスター、私はお医者さんに行くよ!」と僕らの後ろを通り過ぎるおばあちゃん。この人が武田さんか。「じゃあアタシも戻りますか?」店の時計は九時少し前。

会があつたら覗いてみて下さい。★配布協力感謝・千駄木・古書ほうろう、吉祥寺・ブックスルーア、雑司ヶ谷・旅猫築地・ふげん社、淺草・珈琲アロマ。本駒込・青いカバ。